

複合語短縮

日比谷潤子*

キーワード: 複合語短縮, 語形成過程

要旨

日本語教育の上級では、いわゆる生教材を使った授業がよく行われる。そこで頻繁に取り上げられる新聞などをみると、複合語短縮の事例が多数みられる。この複合語短縮というのは、語形成過程の一つで、単独で現れうる語を二つ並列して複合語をつくった後に、それを短縮するものである。短縮された語形の中には一過的なものも多く、辞書などにまとめて載ることはあまりない。

本研究では、まずこの現象に関する先行研究、イミダス '95、大学生を対象とした調査、個人的な収集の四つの手法を組み合わせ、複合語短縮の事例を365語集めた。それをもとにして、この過程のメカニズムを検討したところ、「2モーラ+2モーラ→4モーラ」というパターンがもっとも生産的であることが、はっきりした。これで説明できない事例は365語の約20%にあたるが、この例外をタイプ別に分類した。

1. はじめに

日本語を母語としない人々のための日本語教材はたくさん存在するが、詳しくみると、初級・中級・上級と段階があがるにつれて顕著な数の減少がみられる。そこで、ある程度の日本語力を既に身につけた学習者を対象としたクラスで、教科書にかわってよく用いられるのは、(1)文学作品、(2)総合雑誌や新聞の記事、(3)ニュースをはじめとするテレビ番組などの、いわゆる生教材である。たとえ教材として用いられなくても、特に(2)(3)のような時事的な内容のものを情報収集手段の一つとして理解したいという希望は、外国語として日本語を学ぶ人々に共通するものであろう。

時事的日本語の理解に欠かせないものの一つに、「略語」の知識がある。『日本語大辞典』は、「略語」を「語の一部を省いたことば。『ゴムながぐつ』を『ゴムなが』、『特別急行』を『特急』、『Asia Africa』を『AA』、『日本放送協会』を『NHK』、『science fiction』を『SF』などにする

*HIBIYA Junko: 慶應義塾大学国際センター助教授。

類」と定義している。このうち、最初の二つのような略語を複合語短縮という。

本稿では、この複合語短縮に焦点を当て、まず、形態論の観点からその形成過程を論じたいうえで、四つの手法を用いて収集した事例をもとに、その特徴を分析する。

2. 語形成過程の一つとしての複合語短縮

語形成過程は、(1)のように分類される(窪菌 1995, 竝木 1995)。

(1) ア 付加的操作 ① 派生

単独で現れうる語に、単独では現れることのできない接辞を付加する。

例) お+酒, 暑+さ

② 複合

単独で現れうる語を二つあるいはそれ以上並列して、より大きな語を形成する。

例) 夏#休み, 温泉#旅館

イ 削除的操作 ① 混成語形成

「2語の一部ずつを結合して、新しい語を形成する。架空の動植物や新しい商品・現象のネーミングなどに広く用いられている。」

(窪菌 1995: 143)

例) ゴリラ / くじら → ゴジラ,

キャベツ / にんじん → キャベジン

② 複合語短縮

アの②の過程を経て形成された複合語が短縮される。

例) 表1参照

本稿で扱うのは、イの②である。

複合語短縮の結果形成された略語の中には、その歴史がかなり長く、辞書にも載っているものもあるが、元の複合語の代用という性格を有するためか、一過的な場合も多い。そのため、有意義な分析をするだけの数の事例を収集することが、まず肝要である。今回は、西尾(1988)、カッケンブッシュ・大曾(1990)、保坂(1996)で扱われている事例、『イミダス '95』に取り上げられている事例、私が慶應義塾大学文学部で1996年度に開講した「言語」の授業を通じて収集した事例、個人的な収集の合計365語を対象に分析を進めていく。この中には、一大学の学生、コンピューター・航空などの専門業界関係者など、特定の集団の成員だけにしか理解されないものも多くある。しかし、日本語母語話者にとって、複合語短縮という語形成過程がどのようなもので

あるかを解明していくうえで重要な資料と考えられるので、これらも考察の対象とする。また、厳密には複合語の短縮ではなく、句を短縮しているケースもあるが、これも含めて検討する。

3. 複合語短縮のメカニズム

表1は、上記の365語を、前・後部要素の語種別に示したものである。全体をはじめに、① 人名・地名などの固有名詞を含むものと、② それ以外に大別し、さらに①は人名+人名、人名+科目名、称号+人名、地名+地名、地名+大学、地名+普通名詞、普通名詞+地名の七つに、②は和・漢・外来語別に分類した。表2に、各カテゴリーの分布を示す。外来語+外来語、次いで漢語+漢語という語構成を有するものが圧倒的に多く、この二つが全体の61.9% (365語中126語と100語)を占めている。

表1の365語をみて、まず気づくのは、短縮されてできた語形のほとんどが4モーラ語ということである(365語中307語, 84.1%)。このうち、304語は、短縮される前の複合語の前部要素から2モーラ、後部要素から2モーラをとって構成されている。例外は、1モーラ+3モーラ(アチーブメントテスト→アテスト)、3モーラ+1モーラ(ショップ(アンド)ライフ→ショップラ、ヤマンラール+美術→ヤマンび)というケースである。この304語をさらに分類すると(2)のようになる。

- (2) ① 複合以前の前部要素が元々2モーラの語+後部要素から2モーラ 52
 例) 朝+一番→あさいち、板+山葵→いたわさ、栗+饅頭→くりまん、ゴム
 +長靴→ゴムなが、など
- ② 前部要素から2モーラ+複合以前の後部要素が元々2モーラの語 14
 例) アポイントメント+取り→アポとり、イタリア+飯→イタめし、原動機+
付き→げんつき、天ぷら+かす→てんかす、など
- ③ 前部要素から2モーラ+後部要素から2モーラ 238
 例) 第一+文学部→いちぶん、エコロジー+ビジネス→エコビジ、各駅+停車
 →かくてい、橋本+龍太郎→はしりゅう、など

このうち、①の後部要素、②の前部要素、③の前・後部要素では、それぞれ元の語からどのように2モーラを残すのか、逆に言えば言語のどの部分を削除するのかが問題になる。表1から明らかのように、複合語短縮という操作によって形成される略語の大半は、前部要素のはじめの2モーラ+後部要素のはじめの2モーラという構造になっている。上記の言語が2モーラの場合は、それをそのままとるというわけである。

2モーラが複合語短縮において一つのまとまった単位をなすという事実は、これまでも指摘されてきた(西尾1988, カッケンブッシュ・大曾1990)。また、その説明として「日本語2モ

表 1 複合語短縮の事例

複合語短縮の結果できた語形はひらがな(外来語はカタカナ)で示し、変音現象が起こっているものには下線, 2モーラ+2モーラ→4モーラでないものには網かけ, 2モーラ+2モーラ→4モーラではあるが前・後部要素のはじめから2モーラずつとったのではないものには囲み線を付してある。

普通名詞			
和語+和語			
飴屋	+	横丁	→ あめよこ
板	+	山葵	→ いたわさ
鰻	+	井	→ うなどん
こそこそした		泥棒	→ こそどろ
麦	+	薯蕷	→ むぎとろ
諸味	+	胡瓜	→ もろきゅう
和語+漢語			
朝	+	一番	→ あさいち
朝	+	練習	→ あされん
悪戯	+	電話	→ いたでん
海老	の	天婦羅	→ えびてん
仮	+	免許証	→ かりめん
栗	+	饅頭	→ くりまん
爽やか	+	葡萄	→ さわぶー
(試験に)出る	+	英単語	→ でのる たん
泥棒	と	警察	→ どろけい
漢語+和語			
外国	+	為替	→ がいため
学生	+	割引	→ がくわり
家事	+	手伝い	→ かじてつ
環状	+	七号線	→ かんなな
逆	+	玉の輿	→ ぎゃくたま
銀	+	鼠(色)	→ ぎんねず
原動機	+	付き(自転車)	→ げんつき
恋	の	話	→ こいばな
天婦羅	+	かす	→ てんかす
天婦羅	+	井	→ てんどん
西洋	+	生菓子	→ よう なま
漢語+漢語			
第一	+	文学部	→ いち ぶん
英語	+	検定	→ えいけん
英語	+	頻出(問題集)	→ えいひん
援助	+	交際	→ えんこう
応援	+	指導部	→ えんぶ

はじめから1モーラのみ, 長音化

読み変化

連濁

2+1→3

落語	+	研究会	→	おちけん	音訓転換
温帯	+	低気圧	→	おんてい	
学生	+	食堂	→	がくしょく	
各駅	+	停車	→	かくてい	
確率	+	統計	→	かくとう	
家庭	+	裁判所	→	かさい	1+2 → 3
家庭	+	教師	→	かてきょう	
家庭用	+	電気(製品)	→	かでん	1+2 → 3
完全	+	徹夜	→	かんでつ	
簡易	+	保険	→	かんぽ	2+1 → 3, 半濁音化
教育	+	実習生	→	きょう せい	
行政	+	改革	→	ぎょう かく	
勤務	+	評定	→	きんぴょう	半濁音化
空中	+	撮影	→	くうさつ	
航空	+	母艦	→	くうぼ	2+1 → 3
刑事	+	訴訟	→	けいそ	2+1 → 3
県	+	警察	→	けんけい	
現代	+	社会	→	げんしゃ	2+1 → 3
原論	+	二	→	げんに	2+1 → 3
原子力	+	発電	→	げんぱつ	半濁音化
健康	+	保険	→	けんぽ	2+1 → 3, 半濁音化
高等	+	学校	→	こう こう	
高等	+	専門(学校)	→	こうせん	
国民	+	体育(大会)	→	こくたい	
国会	+	対策	→	こくたい	
国有	+	鉄道	→	こくてつ	
国際	+	連合	→	こくれん	
国語	+	研究所	→	こっけん	促音化
産児	+	制限	→	さんせい	
市(議会)	+	議員	→	しぎ	1+1 → 2
失業	+	対策(事業)	→	しつたい	促音化
私設	+	鉄道	→	してつ	1+2 → 3
住宅(金融)	+	専門(会社)	→	じゅうせん	
最終	+	電車	→	しゅうでん	
修士	+	論文	→	しゅうろん	
塾	+	講師	→	じゅっこう	促音化
春期	+	闘争	→	しゅんとう	
商事	+	会社	→	しょう しゃ	2+1 → 3
情報	+	処理	→	じょうしょ	2+1 → 3
職業	+	安定所	→	しよくあん	
生活	+	協同(組合)	→	せいきょう	
政治	+	経済	→	せいけい	
生命	+	保険	→	せいほ	2+1 → 3
世界	+	銀行	→	せぎん	1+2 → 3
選挙	+	管理(委員会)	→	せんかん	
全国	+	総合(開発計画)	→	ぜんそう	

卒業	+	論文	→	そつろん	
損害	+	保険	→	そんぽ	2+1 → 3, 半濁音化
代数	+	幾何	→	だいき	2+1 → 3
体育	+	協会	→	たいきょう	
大学(入学資格)	+	検定	→	だいけん	
信託	+	銀行	→	しんぎん	
自宅	+	浪人	→	たくろう	
炭坑(国家)	+	管理	→	たんかん	
団体	+	交渉	→	だんこう	
単位	+	産業別	→	たんさん	
駐車	+	禁止	→	ちゅうきん	
中期	+	国債(ファンド)	→	ちゅうこく	
長期	+	欠席	→	ちょうけつ	
長期	+	国債(ファンド)	→	ちょうこく	
地理	+	歴史	→	ちれき	1+2 → 3
通信	+	販売	→	つうはん	
特別	+	番組	→	とくばん	
特別	+	快速	→	とっかい	促音化
特別	+	急行	→	とっきゅう	促音化
特別	+	高等(警察)	→	とっこう	促音化
都営	+	電鉄	→	とでん	1+2 → 3
第二	+	外国語	→	にがい	1+2 → 3
日本	+	銀行	→	にちぎん	
日本	+	劇場	→	にちげき	
日本	+	経済(新聞)	→	につけい	
日本	+	商工(会議所)	→	にっしょう	
日本	+	石油	→	にっせき	
日本	+	通運	→	にっつう	
入学	+	試験	→	にゅうし	2+1 → 3
農業	+	協同(組合)	→	のうきょう	
一般	+	教養	→	ばんきょう	
万国	+	博覧会	→	ばんぱく	半濁音化
府	+	警察	→	ふけい	1+2 → 3
婦人	+	警官	→	ふけい	1+2 → 3
文化(大)	+	革命	→	ぶんかく	
放送	+	研究会	→	ほうけん	
保健	+	管理(センター)	→	ほけかん	
歩行者	+	天国	→	ほこてん	
民事	+	訴訟	→	みんそ	2+1 → 3
民間	+	放送	→	みんぼう	半濁音化
免許	+	停止	→	めんてい	
模擬	+	試験	→	もし	1+1 → 3
郵便	+	貯金	→	ゆうちょ	2+1 → 3
輸出入	+	銀行	→	ゆぎん	1+2 → 3
四輪	+	駆動	→	よんく	2+1 → 3
留守番	+	電話	→	るすでん	

労働	+ 委員会	→ ろうい	2+1 → 3
労働	+ 組合	→ ろうそ	2+1 → 3, 音訓転換
労働(組合)	+ 連合	→ ろうれん	

和語+外来語

朝	+ シャンプー	→ あさシャン	
朝	+ ドラマ	→ あさドラ	
内	+ ゲバルト	→ うちゲバ	
追い出し	+ コンパ	→ おいコン	
空	+ オーケストラ	→ からオケ	長音短化
白(ナンバー)	+ タクシー	→ しろタク	
共働き	+ ハラスメント	→ ともハラ	
懐かし	の メロディー	→ なつメロ	
生	+ コンクリート	→ なまコン	
生	+ シュークリーム	→ なまシュー	
ぱちんこ	+ プロフェッショナル	→ ぱちプロ	
昼	の メロドラマ	→ ひるメロ	

漢語+外来語

駅	の コンサート	→ えきコン	
演歌	の アイドル	→ えん ドル	
外人	+ タレント	→ がいたレ	
綺麗	な カジュアル	→ きれカジ	拗音直化
合同	+ コンパ	→ ごうコン	
紺	の プレザー	→ こんプレ	
財務	+ テクノロジー	→ ざいテク	
産経	+ スポーツ	→ さんスポ	
省	+ エネルギー	→ しょうエネ	
女子	+ マネージャー	→ じょしマネ	
新	+ カリキュラム	→ しんカリ	
即	+ レポート	→ そくレポ	
脱	+ サラリーマン	→ だつサラ	
断然	+ トップ	→ だんトツ	促音 → つ
徹夜	+ マーじゃん	→ てつマン	マー → マン
天然	+ パーマ	→ てんパー	
電話	+ リクエスト	→ でんリク	
東京	+ スポーツ	→ とうスポ	
土壇場	+ キャンセル	→ どたキャン	
半	+ ドンタク	→ はんドン	
一般	+ ピープル	→ ばん ピー	

外来語+和語

アポイント	+ 取り	→ アポとり
イタリア	+ 飯	→ イタめし
カツレツ	+ 井	→ カツどん
クラス	の 友達	→ クラとも

ゴム	+	長靴	→	ゴムなが
ジャパン	+	唐ゆきさん	→	ジャパ ^{ゆき}
ゼミ	+	友達	→	ゼミとも
ベルサイユ	の	薔薇	→	ベルばら

外来語+漢語

サラリーマン	+	金融	→	サラきん	
スポーツ	+	根性	→	スポこん	
スポーツ	+	日本	→	スポにち	
ソビエト	+	連邦	→	ソれん	1+2 → 3
パーティー	+	券	→	パーけん	
パーフェクト	+	完璧	→	パー ^{ぺき}	
バス	+	停留所	→	バスてい	
パソコン	+	通信	→	パソつう	(パーソナル+コンピ ューター → パソ コン)
ビートルズ	+	研究会	→	ビーけん	
ラグビー	+	部	→	^ぶ ビー	2+1 → 3
ボキャブラ	+	天国	→	ボキヤてん	
バレエ	+	部	→	^ぶ レー	2+1 → 3

外来語+外来語

アイス	+	ホッケー	→	^ホ アイ	2+1 → 3
アジテーション	+	ポイント	→	^ト アジ	2+1 → 3
アチーブメント	+	テスト	→	^ト アテスト	1+3 → 4
アパート	と	マンション	→	アパマン	
アメリカン	+	カジュアル	→	アメカジ	拗音直化
アメリカン	+	スクール	→	アメスク	
アメリカン	+	フットボール	→	アメフト	非促音化
アンダー	+	グラウンド	→	アングラ	
アン	+	コンストラクテッド	→	アンコン	
アンダー	+	スコート	→	アンスコ	
イタリアン	+	カジュアル	→	イタカジ	拗音直化
イメージ	+	チェンジ	→	イメチェン	
インター	+	カレッジ	→	インカレ	
エア	+	コンディショニング	→	エアコン	
エコロジ	+	ビジネス	→	エコビジ	
エンジン	+	ストップ	→	エンスト	
エンジニアリング	+	プラスチック	→	エンプラ	
オペレーション	+	センター	→	オペセン	
オリジナル	+	コンフィデンス	→	オリコン	
オレンジ	+	カード	→	^カ オレ	2+1 → 3
カー	+	ナビゲーション	→	カーナビ	
カメラ	+	リハーサル	→	カメリハ	
キャバレー	+	クラブ	→	キャバクラ	
クラス	+	コンパ	→	クラコン	

ゲーム	+ センター	→ ゲーセン	
コスチューム	+ プレイ	→ コスプレ	
コマーシャル	+ ソング	→ コマソン	
サステイニング	+ プログラム	→ サスプロ	
サラダ	+ ドレッシング	→ サラドレ	
サラダ	+ スバゲティー	→ サラスパ	
ジーンズ	+ ジャンパー	→ ジージャン	
ジーンズ	+ パンツ	→ ジーパン	
シスター	+ コンプレックス	→ シスコン	
シャープ	+ ペンシル	→ シャーペン	
ジャンパー	+ スカート	→ ジャンスカ	
ショップ	(アンド)ライフ	→ ショップラ	3+1 → 4
シルバー	+ ハラスメント	→ シルハラ	
スーパー	+ ファミリー(コンピューター)	→ スーフファミ	
スケート	+ ボード	→ スケボー	
スタジアム	+ ジャンパー	→ スタジャン	
スターティング	+ メンバー	→ スタメン	
スノー	+ ボーディング	→ スノボー	
スーパー	+ コンピューター	→ <u>スパコン</u>	長音短化
セクシュアル	+ ハラスメント	→ セクハラ	
ゼネラル	+ コントラクター	→ ゼネコン	
ゼネラル	+ ストライキ	→ ゼネスト	
ソニー	+ プラザ	→ ソニプラ	
ダンス	+ パーティー	→ <u>ダンパ</u>	2+1 → 3
チノクロス	+ パンツ	→ チノパン	
チャイルド	+ アイドル	→ チャイ ^{ドル}	
チョコレート	+ パフェ	→ <u>チョコパ</u>	2+1 → 3
ツアー	+ コンダクター	→ ツアコン	
デパート	+ ガール	→ <u>デパガ</u>	2+1 → 3
モデル	の カジュアル	→ <u>デルカジ</u>	拗音直化
テレビ	+ オーケストラ	→ <u>テレオケ</u>	長音短化
テレホン	+ カード	→ <u>テレカ</u>	2+1 → 3
テレホン	+ クラブ	→ テレクラ	
ドラゴン	+ クエスト	→ ドラクエ	
ドライビング	+ コンテスト	→ ドラコン	
トランス	+ ポンダ	→ トラポン	原語では複合語ではない
トレンディー	+ ドラマ	→ トレドラ	
ノー	+ コントロール	→ ノーコン	
ノン	+ レブニュー(パッセンジャー)	→ ノンレブ	
パーティー	+ コンパニオン	→ パーコン	
バー	+ テンダー	→ バーテン	
ハイウェー	+ カード	→ <u>ハイカ</u>	2+1 → 3
ハイ	+ ソサイエティー	→ <u>ハイソ</u>	2+1 → 3
ハイ	+ テクノロジー	→ ハイテク	
バイオ	+ テクノロジー	→ バイテク	

バゲージ	+	トラブル	→	バゲトラ	
パーソナル	+	コンピューター	→	パソコン	長音短化
パトロール	+	カー	→	パトカー	
パート	+	タイム	→	パトタイ	長音短化
バナナ	+	リパブリック	→	バナリパ	
バラエティー	+	アイドル	→	バラ ドル	
パリ	+	カジュアル	→	パリカジ	拗音直化
パリ	+	コレクション	→	パリコレ	
バリアブル	+	コンデンサー	→	バリコン	
パワー	+	ステアリング	→	パワステ	
ハンガー	+	ストライキ	→	ハンスト	
パンティー	+	ストッキング	→	パンスト	
バンド	+	マスター	→	バンマス	
ビーチ	+	サンダル	→	ビーサン	
ヒット	+	パレード	→	ヒッパレ	
ビーフ	+	ステーキ	→	ビフ テキ	長音短化
ファザー	+	コンプレックス	→	ファザコン	
ファミリー	+	コンピューター	→	ファミコン	
ファミリー	+	マーケット	→	ファミマ	2+1 → 3
ファミリー	+	レストラン	→	ファミレス	
ファンド	+	トラスト	→	ファントラ	
ブラザー	+	コンプレックス	→	ブラコン	
プラス	+	バンド	→	ブラバン	
プラスチック	+	モデル	→	プラモ	2+1 → 3
フリー	+	アルバイター	→	フリー ター	3+2 → 5
ブルーマー	と	セーラー服	→	ブラセラ	長音短化
プレキャスト	+	コンクリート	→	プレコン	
ベース	+	アップ	→	ベア	1+1 → 2
ヘアー	+	カタログ	→	ヘアカタ	
ヘアー	+	バンド	→	ヘアバン	
ポケット	+	ベル	→	ポケベル	
ポスト	+	ドクトラル	→	ポストク	
ボディー	+	コンシャス	→	ボディコン	
ボディー	+	ボード	→	ボディボー	
ポテト	+	チップ	→	ポテチ	2+1 → 3
マイ	+	コンピューター	→	マイコン	
マイ(リトル)	+	ラバー	→	マイラバ	
マザー	+	コンプレックス	→	マザコン	
マス	+	コミュニケーション	→	マスコミ	拗音直化
ママ	の	アイドル	→	ママ ドル	
マルチプル	+	チョイス	→	マルチョイ	
マンドリン	+	クラブ	→	マンクラ	
ミス	+	コンテスト	→	ミスコン	
ミスター	+	ドーナツ	→	ミスド	2+1 → 3
ヤンキー	+	ママ	→	ヤンママ	
ヤング	+	ママ	→	ヤンママ	

ラケット	+	バッグ	→	ラケバ	2+1 → 3
ラジオ	+	コントロール	→	ラジコン	
リゾート	+	ラバー	→	リゾラバ	
リモート	+	コントロール	→	リモコン	
レモン	+	スカッシュ	→	レスカ	1+2 → 3
レタス	+	ペッパー(バーガー)	→	レタペパ	非促音化
ロケーション	+	ハンティング	→	ロケハン	
ロリータ	+	コンプレックス	→	ロリコン	
ロング	+	バケーション	→	ロンバケ	
ワード	+	プロセッサ	→	ワープロ	
ワン	+	レングス	→	ワンレン	

固有名詞

人名+人名(グループ名を含む)

イエロー	+	モンキー	→	イエモン	
大槻	+	ケンジ	→	おおけん	
小沢	+	健二	→	おざけん	
木村	+	拓也	→	きむたく	
後藤	+	久美子	→	ごくみ	1+2 → 3
スマップ	+	スマップ	→	スマスマ	
チャゲ	(アンド)飛鳥		→	チャゲあす	
豊川	+	悦司	→	とよえつ	
ドリームズ	+	カム(トルー)	→	ドリカム	
ナインティ	+	ナイン	→	ナイナイ	
橋本	+	龍太郎	→	はしりゅう	
浜田	+	幸一	→	はまこう	
浜田	+	省吾	→	はましょう	
プリンセス	+	プリンセス	→	プリプリ	
ミスター	+	チルドレン	→	ミスチル	

人名(先生)の科目名: すべて漢語

市川(先生)	の	音楽	→	いちおん	
衛藤(先生)	の	美術	→	えとび	2+1 → 3
鹿園(先生)	の	地学	→	しかち	2+1 → 3
ヤマンラール(先生)	の	美術	→	ヤマンび	3+1 → 4
由木(先生)	の	宗教	→	ゆきしゅう	

普通名詞: 外来語+人名

セント	+	クリストファー	→	センクリ	
-----	---	---------	---	------	--

地名+地名

田園	+	調布	→	でんちょう	
東京	+	芝浦(+電気)	→	とうしば	
東京	+	中日(+スポーツ)	→	とうちゅう	
二子	+	玉川	→	にこたま	音訓転換

武蔵	+	小杉	→	むさこ	2+1→3
地名 / 元号 + (普通名詞: すべて漢語) + 大学					
青山	+	学院(+大学)	→	あおがく	
お茶の水	+	女子(+大学)	→	おちゃじよ	2+1→3
九州	+	大学	→	きゅうだい	
京都	+	大学	→	きょうだい	
慶應(+義塾)	+	大学	→	けいだい	
早稲田	+	大学	→	そうだい	音訓転換
多摩	+	美術(+大学)	→	たまび	2+1→3
東京	+	大学	→	とうだい	
日本	+	大学	→	にちだい	
大阪	+	大学	→	ほんだい	音訓転換
北海道	+	大学	→	ほくだい	非促音化
武蔵野	+	美術(+大学)	→	むさび	2+1→3
横浜	+	市立(+大学)	→	よこいち	(横浜市立大学からの短縮か)
横浜	+	国立(+大学)	→	よここく	
地名 + 普通名詞: 和語					
銀座	で	ぶらぶらする	→	ぎんぶら	
日吉	の	裏	→	ひようら	
地名 + 普通名詞: 漢語					
関西	+	空港	→	かんくう	
京浜	+	急行	→	けいきゅう	
渋谷	+	公会堂	→	しぶこう	
東京	+	急行	→	とうきゅう	
東京	+	電力	→	とうでん	
横浜	+	銀行	→	はまぎん	
横浜	+	線	→	はません	
日比谷(線)	+	直通	→	ひびちよく	
日吉	の	代表	→	ひよだい	
地名 + 普通名詞: 外来語					
浅草橋	+	ヤング(+洋品店)	→	あさヤン	
渋谷	+	カジュアル	→	しぶカジ	拗音直化
東京	+	スポーツ	→	とうスポ	
横浜	+	スタジアム	→	よこスタ	
代々木	+	ゼミナール	→	よゼミ	1+2→3
普通名詞: 和語 + 地名					
下	+	北沢	→	しもきた	
西	+	船橋	→	にしふな	
元	+	住吉	→	もとすみ	

普通名詞：漢語＋地名

新

＋ 横浜

→ しんよこ

表 2 短縮語形の語種別分類

語 種	N	%
普通名詞		
和語＋和語	6	2
和語＋漢語	9	2
漢語＋和語	11	3
漢語＋漢語	100	27
和語＋外来語	12	3
漢語＋外来語	21	6
外来語＋和語	8	2
外来語＋漢語	12	3
外来語＋外来語	126	35
固有名詞		
人名＋人名	15	4
人名(先生)の科目名	5	1
称号＋人名	1	0
地名＋地名	5	1
地名＋大学	14	4
地名＋普通名詞	16	4
普通名詞＋地名	4	1

ーラ 1 単位論」(窪菌 1995) が提唱されている。この「2 モーラ 1 単位論」というのは、モーラはただ数珠のように連なっているわけではなく、二つずつ結びついて一つの単位を形成するという考え方で、この 2 モーラから成る単位は韻脚(フット)と呼ばれる(原口 1994)。日本語における韻脚という概念の重要性は、愛称などの呼び名の形成 (Poser 1990)、数字や曜日を列挙する際にみられる長音化 (Ito 1990)、隠語の形成 (Tateishi 1989) といった事実によっても確認されている。

4. 複合語短縮の例外

前節で行った事例検討から、複合語短縮におけるもっとも生産的なパタン(本稿のデータの 8 割強に該当)が明らかになったが、勿論例外も存在する。本節では、この例外を分析していく。

例外は大きく二つに分類される。第一は、「2 モーラ 1 単位論」には合致しているが、前部要素あるいは後部要素のはじめから 2 モーラではなく、他の 2 モーラを残す場合、及び変音現象を

伴って短縮される場合である。第二は、前部要素、後部要素のどちらか一方、あるいは両方から2モーラではなく1モーラ、または3モーラを残したため、短縮語形が4モーラにならない場合である。

前者のうち、前・後部要素のはじめから2モーラとったのではないケース(変音現象は伴わない)は、次の18例にとどまる。

例) 第一	+	文学部	→	<u>いちぶん</u>
演歌	の	アイドル	→	<u>えんドル</u>
教育	+	実習生	→	<u>きょうせい</u>
行政	+	改革	→	<u>ぎょうかく</u>
高等	+	学校	→	<u>こうこう</u>
ジャパン	+	からゆき	→	<u>ジャパゆき</u>
商事	+	会社	→	<u>しょうしゃ</u>
自宅	+	浪人	→	<u>たくろう</u>
チャイルド	+	アイドル	→	<u>チャイドル</u>
モデル	の	カジュアル	→	<u>デルカジ</u>
(試験に)出る	+	英単語	→	<u>でるたん</u>
パーフェクト	+	完璧	→	<u>パーべき</u>
横浜	+	銀行	→	<u>はまぎん</u>
横浜	+	線	→	<u>はません</u>
バラエティー	+	アイドル	→	<u>バラドル</u>
一般	+	教養	→	<u>ばんきょう</u>
一般	+	ピープル	→	<u>ばんピー</u>
ママ	の	アイドル	→	<u>ママドル</u>

このうち、2例(第一+文学部→いちぶん、ジャパン+からゆき→ジャパゆき)は、意味の区別が関与していると考えられるが(第二文学部ではない、唐ではなくジャパンへ行く)、これ以外については、なぜはじめの2モーラ以外が残されるのか、明解な説明をすることは難しい。

変音現象は、① 拗音直化、② 長音短化、③ 短音長音化、④ 促音化、⑤ 非促音化、⑥ 連濁、⑦ 半濁音化、⑧ 音訓転換に分けられる。④～⑦は、日本語の一般的な音韻法則によって引き起こされるものである。

① 短縮語形の最終モーラの拗音は直音化する

例) カジュアル→*カジュ ○カジ:

きれい	な	カジュアル	→	きれカジ
アメリカン	+	カジュアル	→	アメカジ

イタリアン + カジュアル → イタカジ
 モデル の カジュアル → デルカジ
 パリ + カジュアル → パリカジ
 渋谷 + カジュアル → しぶカジ

コミュニケーション → *コミュ ○コミ:

マス + コミュニケーション → マスコミ

- ② はじめから2モーラとると第2モーラが長音になる場合、その長音ではなく、その次のモーラを残す

例) オーケストラ → *オー ○オケ:

空 + オーケストラ → からオケ

テレビ + オーケストラ → テレオケ

スーパー → *スー ○スパ:

スーパー + コンピューター → スパコン

パーソナル → *パー ○パソ:

パーソナル + コンピューター → パソコン

パート → *パー ○パト:

パート + タイム → パトタイ

ビーフ → *ビー ○ビフ, ステーキ → *テーキ ○テキ:

ビーフ + ステーキ → ビフテキ

但し、ゲームセンター → ○ゲーセン *ゲムセン, シャープペンシル → ○シャーペン
 *シャプペンのような例もある。

- ③ はじめから1モーラだけをとり、そのモーラを長音化する

例) ぶどう *ぶど ○ぶー:

さわやか + ぶどう → さわぶー

但し、これは極めてまれなケースである。

- ④ 後部要素の第1モーラが無声音の場合、前部要素の第2モーラが促音化する

例) 国語 + 研究所 → *こくけん ○こっけん

失業 + 対策 → *しつたい ○しったい

塾 + 講師 → *じゅくこう ○じゅっこう

特別 + 快速 → *とくかい ○とっかい

特別 + 急行 → *とくきゅう ○とっきゅう

特別 + 高等(警察) → *とくこう ○とっこう

- ⑤ ④の逆の現象で、短縮の結果、後部要素の第1モーラが無声音でなくなった場合、非促

音化する

例) スポーツ+日本	→ *スポにっ	○スポにち
日本+銀行	→ *にっぎん	○にちぎん
日本+劇場	→ *にっげき	○にちげき
日本+大学	→ *にっだい	○にちだい
北海道+大学	→ *ほっだい	○ほくだい

後部要素のはじめの2モーラをそのままとると短縮語形が促音で終わることになってしまう場合、促音をとばして、その次のモーラを残す

例) フット	→ *フツ	○フト:
アメリカン	+ フットボール	→ アメフト
ペッパー	→ *ペツ	○ペパ:
レタス	+ ペッパー(バーガー)	→ レタペパ

または、促音を「ツ」にかえる

例) トップ	→ *トツ*トプ	○トツ:
断然	+ トップ	→ だんトツ

- ⑥ 句の短縮で助詞が脱落した結果、後部要素が和語の場合、連濁がおこる

例) はなし	→ *はな	○ばな:
恋	の 話	→ こいばな

但し、「クラスの友達」「ゼミの友達」はそれぞれ「クラとも・ゼミとも」である。これは、「恋の話」「クラスの友達」「ゼミの友達」がまず「恋+話」「クラス+友達」「ゼミ+友達」という複合語になり、それから短縮したことを示していると考えられる。なぜならば、連濁がもともと濁音を含まない「はなし」を後部要素とする場合には起こるのに対して、濁音を含む「ともだち」の場合には起こらないからである。

- ⑦ 前部要素の第2モーラが撥音の場合、後部要素第1モーラのハ行音は半濁音化する

例) 簡易	+ 保険	→ *かんほ	○かんぼ
勤務	+ 評定	→ *きんひょう	○きんびょう
原子力	+ 発電	→ *げんはつ	○げんぱつ
健康	+ 保険	→ *けんほ	○けんぼ
損害	+ 保険	→ *そんほ	○そんぼ
万国	+ 博覧会	→ *ばんはく	○ばんぱく
民間	+ 放送	→ *みんほう	○みんぼう

- ⑧ 複合語が短縮される過程で、音訓の転換が起こる。

例) 落語	+ 研究会	→ *らくけん	*らっけん	○おちけん
-------	-------	---------	-------	-------

労働	+	組合	→	○ろうそ	
					但し、「ろうくみ」も不可能ではない
二子	+	玉川	→	*ふたたま	○にこたま
早稲田	+	大学	→	*わせだい	○そうだい
横浜	+	市立(大学)	→	*よこし	*よこしり
					○よこいち
					但し、「横浜市立(大学)」からの短縮と考えれば、 複合語短縮に伴う音訓変換ではない

表1にあげられた中で、後者にあたる例外は58例ある。このうち、短縮語形が2モーラのもものが3例(市(議会)+議員→しぎ、模擬+試験→もし、ペース+アップ→ペア)、5モーラのもものが1例(フリー+アルバイター→フリーター)みられるが、それ以外の54例はすべて3モーラに短縮されている。58例のうち30例は、前部要素と後部要素から漢字を1字ずつとったものである。

例)	家庭	+	裁判所	→	かさい
	航空	+	母艦	→	くうぼ
	情報	+	処理	→	じょうしょ など

また、11例は前部要素か後部要素のどちらか一方から、漢字を1字とってつくられている。

例)	武蔵	+	小杉	→	むさこ
	代々木	+	ゼミナール	→	よゼミ
	後藤	+	久美子	→	ごくみ など

漢字音が1モーラの場合、短縮語形は必然的に4モーラにならない。形態素の切れ目で短縮がおこるわけだが、非常に興味深いことに、複合語短縮という語形成過程を経てきた最近の流行語には、漢字音のモーラ数に関係なく、つまり形態素の切れ目を無視して作られたものが多い。

例)	衛藤(先生)	の	美術	→	えとび
	小沢	+	健二	→	おざけん
	家事	+	手伝い	→	かじてつ
	家庭	+	教師	→	かてきょう
	木村	+	拓也	→	きむたく
	土壇場	+	キャンセル	→	どたキャン
	日吉	の	裏	→	ひようら
	日吉	の	代表	→	ひよだい
	保健	+	管理(センター)	→	ほけかん
	歩行者	+	天国	→	ほこてん
	ヤマンラール(先生)	の	美術	→	ヤマンび

このうち、人名(先生)+科目名から短縮された2例(いずれも後部要素は「美術」)を除くと、形態素の切れ目を無視することによって2モーラがとりだされておられ、「2モーラ+2モーラ→4モーラ」というパタン的一般性、生産性をよく示していると言えよう。

短縮語形が4モーラでない58例のうち、残りの17例はすべて外来語+外来語という内部構造を有するものである。この17例を検討すると、次のような規則性がみられる。

- ① 後部要素のはじめから2モーラとった時、第2モーラが促音、及び長音の場合は、後部要素の第1モーラのみをとり、その結果短縮語形が3モーラになる傾向が強い。

例) 促音

アイス	+	ホッケー	→	*アイホッ	○アイホ
ポテト	+	チップ	→	*ポテチッ	○ポテチ
ラケット	+	バッグ	→	*ラケバッ	○ラケバ

長音

オレンジ	+	カード	→	*オレカー	○オレカ
ダンス	+	パーティー	→	*ダンパー	○ダンパ
デパート	+	ガール	→	*デパガー	○デパガ
テレホン	+	カード	→	*テレカー	○テレカ
ハイウェイ	+	カード	→	*ハイカー	○ハイカ
ファミリー	+	マーケット	→	*ファミマー	○ファミマ
ミスター	+	ドーナツ	→	*ミスドー	○ミスト

既に触れた「ベア」も、前・後部要素がそれぞれの第2モーラが長音と促音の「ベース+アップ」から短縮されており、これに準ずると考えられる。

3モーラの短縮語形で、上記のいずれのケースにも当てはまらないのは、以下の5例にとどまる。

例) アジテーション	+	ポイント	→	アジト
チョコレート	+	パフェ	→	チョコパ
ハイ	+	ソサエティ	→	ハイソ
プラスチック	+	モデル	→	プラモ
レモン	+	スカッシュ	→	レスカ

5. おわりに

本稿では、複合語短縮のメカニズムをさぐり、その一般的・生産的パタンを示すとともに、例外を分析した。

冒頭にも述べたように、時事日本語を理解するうえで、複合語短縮の知識は欠かせない。さらに、この過程を経て形成された短縮語の多くが一過的であるため、語彙集などによる学習には、あまり意味がない。それより「(はじめから)2モーラ+(はじめから)2モーラ→4モーラ」のパタンが極めて生産的であることを指摘し、そうでないものが出てきた時には、なぜ例外的であるかを示すことによって、複合語短縮のメカニズムを理解させる方が有効だろう。その理解は、生教材などの日本語で、未見の短縮事例に出会った時、元の語を推測するのに役立つであろう。

参 考 文 献

- カッケンブッシュ 寛子・大曾美恵子(1990) 『外来語の形成とその教育』日本語教育参考書 16, 国立国語研究所.
- 窪菌晴夫(1992) 「日本語のモーラ: その役割と特性」, 『日本語のモーラと音節構造に関する総合的研究(1)』文部省重点領域研究日本語音声平成3年度研究成果報告書 48-61.
- (1994) 「日本語の音節量について」, 『国語学』178, 7-17.
- (1995) 『語形成と音韻構造』日英語対照研究シリーズ第3巻, くろしお出版.
- 小松英夫(1981) 『日本語の音韻』日本語の世界第7巻 中央公論社.
- 小森由貴(1997) 『略語の構造とアクセント』慶應義塾大学卒業論文.
- 田中真一(1996) 『日本語の音節構造と音韻現象』大阪外国語大学修士論文.
- 寺尾 康(1992) 「文産出からみた音節・モーラ」, 『日本語のモーラと音節構造に関する総合的研究(1)』文部省重点領域研究日本語音声平成3年度研究成果報告書, 62-75.
- 西尾寅弥(1988) 『現代語彙の研究』, 明治書院.
- 服部四郎(1960) 『言語学の方法』, 岩波書店.
- 原口庄輔(1994) 『音韻論』現代の言語学シリーズ第3巻, 開拓社.
- 日比谷潤子(1996) 「日本語教育における複合語短縮の扱いについて—初級・中級—」, 『日本語と日本語教育』第25号, 53-67.
- 保坂敏子(1996) 「上級前期調査・発表における塾生言葉の実態調査—共同調査による自律化の試み—」, 『日本語と日本語教育』第25号, 117-34.
- Cambell, W. N. and Y. Sagisaka. 1991. Moraic and syllable-level effects on speech timing. *IEICE Technical Report SP 90-106*: 35-40.
- Ito, J. 1990. Prosodic minimality in Japanese. *Chicago Linguistic Society 26. Part II: Papers from the Parasession on the syllable in phonetics and phonology*, 213-39.
- Kubozono, H. 1989. The mora and syllable structure in Japanese: Evidence from speech errors. *Language and Speech* 32, no 3: 249-78.
- McCawley, J. D. 1968. *The phonological component of a grammar of Japanese*. The Hague: Mouton.
- Mester, R. A. 1990. Patterns of truncation. *Linguistic Inquiry* 21, no 3: 478-85.
- Otake, T., G. Hatano, A. Cutler, and J. Mehler. 1993. Mora or syllable? Speech segmentation in Japanese. *Journal of Memory and Language* 32: 258-78.
- Poser, W. 1990. Evidence for foot structure in Japanese. *Language* 66: 78-105.
- Tsujimura, N. 1996. *An introduction to Japanese linguistics*. Malden, MA: Blackwell.